

企画 集客と避難対策施策について

Q 次の2点について伺う。
1 集客・小田急・相模鉄道相互乗り入れの計画実現に向けて、小田急沿線の県央自治体との連携強化促進と湯本駅改修計画の今後の方向性について

2 避難・箱根 南足柄の道路開通促進について

A

ず、相模鉄道の小田急線への相互乗り入れ計画については、県内の各鉄道沿線自治体で構成されている「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議小田急電鉄部会」を通じて、要望書を提出いたしました。また、平成15年4月に両社の車両定規、車両構造、運転保安設備等が異なるため、困難と判断しているとの回答をいただいたものである。

しかしながら、最近、県央の経済団体や関係自治体との議論が高まっているとの新聞報道もされており、町としてもその動向に大きな関心を寄せているところである。相模鉄道が小田急線に乗り

入れることは、県央地域の皆さんの小田原、箱根方面へのアクセス条件が大きく改善され、箱根への誘客、集客に大きな効果が期待できるものと考えているが、箱根が観光地として、これまで発展してきたことを考えると、小田急電

鉄が果たしてきた役割は、大変大きいものがあるので、小田急電鉄側の考え方も十分認識した上で、今後の観光地箱根を見据えて、「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」の中で、県央地域の自治体にも働きかけを行い、実現に向けた要望活動を行っていききたい。

また、箱根湯本ターミナル整備については、年間入り込み客数2千万人、宿泊客数5百万人の目標のための受け入れ環境の整備という意味で、駅舎や国道横断の橋上化により観光客あるいは歩行者が「わかりやすく」また「安全」

に利用できる空間を整備していく予定であり、今後、駅ホームの拡大等も鉄道事業者にお願いをしていくほか、この

整備を契機に周辺地域の回遊性を高める方策など「まちづくり」について住民の皆さんとともに考えていきたい。

2点目について、町としては、大規模災害等発生時の緊急避難道路としてライフライン確保のための道路及び観光客の周遊できる道路として、その整備について南足柄市と事務レベルで調査研究が進められており、また、この道路の必要性については、南足柄市の沢市長も十分に認識していただいている。

広域的には、神奈川県及び関係自治体と緊急災害時のアクセスの確保だけではなく、地域振興、広域観光などの観点からも協議していききたい。



湯本駅前

学校教育 箱根町教育の基本方針について

Q 次の4点について伺う。
1 教育施策は、どのような過程を経て、目標として定められるのか

2 統合を踏まえて、従来の箱根教育と比較して一番大きく変わる点は

3 「確かな学力」の定着と「学びの意欲」の向上を推進する目標は、それぞれの学校で行うのか。また、町全体として、その達成工程を集約する方向は

4 生きる力を身につけるための方法として、家庭と学校で目標を一つにして、箱根全体で共通の認識を持つ必要があると思うが

局として原案を決定している。

2点目について、統合はまたとない教育改革と考え、統合することにより、新たな箱根らしい教育を創り上げたい。今後は、各学校で実施している特色ある教育活動を踏まえ、箱根全体のことを考えた箱根教育を実施していかねばならないと考えている。

3点目について、確かな学力とは基礎・基本の定着であり、また、国の示す学習指導要領に書かれていることが到達していることである。

各学校では指導要領に書かれている学習内容を到達させるために、少人数での授業やグループ学習などの指導法を工夫するほか、体験学習など学力の向上に努めている。

4点目について、本年1月に家庭のあり方や温かさなどを考える機会として、小中学生を対象に募集した標語や箱根教育の具現化、文部科学省が提唱している標語などが様々な角度から研究していきたいと考えている。

A

月に教育委員の会議に諮り、1つに「日々の教育活動の中で取り組んでいく目標は何か」、2つに「将来を見据えて取り組んでいく目標は何か」を基本に検討をし、さらに一年間指導主事等が学校や園を訪問した時の評価や各行政委員さんの会議等のご意見などを参考にし、事務